

一西新聞

発行
立川市立
一色西部小学校
PTA編集
PTA文教委員会



学校と気持ちよく関わるために

PTA会長 三矢 宏典

昨年度に引き続き、役員としていくつかの学校行事やPTA活動に参加しましたが、保護者と学校との間に意識の乖離を感じることはありませんでした。

先生方は、さまざまに寄せられる私たち保護者の意見を踏まえ、アフターコロナの時代を生きる子供たちに少しでもいい思い出を残そうと、いろいろとアイデアを出してください。私に意見を求めてください。みんなの考えを平等に、とはいかないまでも、折衷案を出したり、保護者に負担のない方法を思案したりと日々模索されています。そうして決定した学校行事やPTA活動に対して、保護者がいささか消極的であるように感じるのである。

家庭の都合などもあることでしょうし、参加したいけれど予定が合わない、または単純に面倒だという方もいらっしゃるでしょう。つまり、学校行事やPTA活動を「強制」することは誰にもできないのです。

では、どうしてもこの乖離を埋めることができるのでしょうか。そのために、今一度お互いの「役割」について考えてみたいと思います。私は日頃から、子供たちが明るく楽しく学校生活を過ごせるようにしたい。ただの先生が通えるよう行事やPTA活動を通じて学校を見守ることが保護者の役割であると認識しています。その役割が少しでも果たせるよう、お互いに歩み寄り、自分ができることを無理なくやってみれば、私たち保護者も自然と学校行事やPTA活動に対して前向きに携われるのではないのでしょうか。物理的に参加が難しい場合でも、例えば、行事に関わってくれた先生や保護者にお会いした際に一言お礼を添えたり、逆に「自分はこれならできる」ということをご提案いただいたり。誰に強制されることもなく、自分の役割を自分のできるやり方で行うことで気持ちよく学校と関わっていただけたらと思います。



たくましくあれ

校長 藤井 健一

九月のある日、「たくさんとれたよ」と言って、一年生の子が朝顔の種を見せてくれました。「すごいねえ」と種を見てみると、「種は茶色の袋みたいなのの中にあるんだよ」。「紫の花の種だから、来年も紫の花が咲くと思うよ」と、子供たちは競うようにいろいろなことを教えてくれました。

目を輝かせて話す子供たちの姿に幸せを感じながら、九月になっても咲く朝顔を眼前にし、ほろ苦い思い出が頭をよぎりました。

五十年近くも昔の話になりますが、小学一年の授業で植えた私の朝顔の種は、最後まで芽を出しませんでした。きちんと水やりもしましたが、友達の鉢に双葉が出て、蔓が伸びて花が咲いても、私の鉢には何の変化も起きなかつたのです。

当時、このみじめで、悔しい思いを作文に書きました。書いたきつかけや、詳しい内容は記憶にありませんが、自分の気持ちがよく書けていてすばらしいと、担任の先生が絶賛

してくださったことはよく覚えてい

ます。後に知ったことですが、私は種の上にも細かく土をかけた、手でぎゅっと押し込む作業を繰り返して、すり切りいっぱいまで鉢に土を詰めたいのです。担任の先生は、芽は出ないかもしれないが、それもまた勉強だと考え、そのまま見守ってくださいました。転ばぬ先に杖をつく先生であつたとしたら、書くことが好きになるきっかけとなつた作文は誕生しなかつたことでしょう。

思い通りにいかずに悲しい顔をしている子供を見るのは心が痛みます。しかし、その思い通りにいかない経験こそが、成長に欠かせないことも珍しくありません。

予測不可能な時代を生きていく子供たちは、さまざまな困難に出会うでしょう。

その困難を乗り越えられるようにたくましく身を付けてほしいと願っています。やみません。



ったけれど、みんなが拍手してくれてさい後までがんばることができました。

二つ目は、応えんです。五・六年生の徒きよう走の時に雨がふってしまったけれど、みんなで応えんをしました。さい後のリレーは、接せんだったけれど、負けた子も勝った子も一生けん命がんばっていてすごいなと思いました。

四年生の運動会はとても楽しかったです。五年生もいい運動会になるようにがんばりたいです。



目標を達成できた運動会

五年一組 清水 健

ぼくは、「みんなにすごいと思われる姿を見せたい」という目標をもって、運動会をがんばりました。運動会の集団演技では、練習のときに先生に言われたことを思い出しながらやりました。特に、指先や足先までのばすこと、バランス技で、バランスを取ったら、動かないでじ

つとすることに気をつけました。徒競走もがんばりました。徒競走のとき、雨がふっていたけれど、練習よりも自分の全力を出し切って走りました。一位が取れたので、とてもうれしかったです。

終わったあと、家族のみんなが、「すごかったよ。上手にできていたね。」

と言ってくれたので、目標を達成したなと思いました。来年の運動会では、今年よりもさらに上手になれるように、がんばりたいです。



最後の運動会

六年一組 木口 結衣花

開会式、「心を一つに 轟け思い笑顔の花をさかせよう」というスローガンのように、西部小にいる人たち全員が笑顔になってほしいという思いで宣誓をしました。

集団演技「想」。九十六人で作りあげる集団演技。組まないからこそ、一緒につくりあげる仲間のこと

を想い、見ている人たちに勇気や希望を与えられる演技をしよう」と一杯演技をしました。痛くても、辛くても、泥だらけになっても、自分たちの想いを届け、感動してもらえよう。今まで練習してきたことを出し切りました。技をきめると大きな拍手がもらえ、力がわきました。そして全員の想いを一つにしてつくり上げた最後の全体技は、自分たちだけではなく、会場が一体になった気がして、とても達成感がありました。小学校生活最後の運動会。みんなの心が一つになり、想いが轟いて、すてきな笑顔の花が運動場にさきほこりました。



団結を学んだ山の学習

五年二組 堀田 瑚子

私はこの山の学習で「団結」を学びました。

私は今まで一人でがんばればいと思っていました。しかし、この山の学習は「自分たちで作らなければならないだったので、一人ではできませんでした。そこで、友達と案を出し合ったり、学校生活で呼びかけ合ったりしながら、山の学習までの日々で成長できるよう取り組みました。

私たちは、山登りで友達の荷物を持ち合ったり、友達と協力しながら飯盒炊さんを行ったりすることができました。中でも、キャンプファイヤーでは、全員で手をつなぎながらスタンプを出し合うことで、みんながとびっきりの笑顔になり、私は喜



びを感じました。

この山の学習で「仲間と団結し、みんなの笑顔で五つ星を輝かせ！」というスローガンを達成でき、最高の山の学習になりました。このクラスのみならず、この学年のみんな、山の学習に行けてよかったです。これからも、みんなで団結して成長していきます。

歴史を感じた最高の修学旅行

六年二組 永岡 詩珠

「古い都を大切にしたい」とこの修学旅行を通して強く思いました。こう思ったきっかけは、世界遺産に登録されている清水寺を見たことです。清水寺の舞台はくぎを一本も使わず、百六十八本の柱を組み合わせて作られています。この話をガイドさんから聞いたとき、建物はくぎを使っていることが当たり前だと思っていたので、信じられませんでした。昔の環境でこんな大きな建物を建てることができたのは、すごいなと思いました。

歴史を感じることが出来る建物とその建物を建てる技術を受けついでいてほしいなと思いました。

学年全員で修学旅行に行くことができ、六年生全員の力が合わさって、スローガンを達成することができたと思います。そして、絶対に忘れられない最高の思い出になりました。



PTA活動より

笑顔の花が満開の運動会

PTA文教委員長 三矢 亮介

五月二十一日、小雨の降る中、西小の運動会が開催されました。徒競走の最中に雨で一時中断となりましたが、「心を一つに 轟け思い 笑顔の花をさかせよう」というスローガンのもとで心が一つになったおかげか、無事最後まで終わることができました。

一・二年生の「ツバメとげんきに えがおでおおきくはばたけ」は色とりどりのボンボンを持って踊る子供たちがかわいくて自然と笑顔になりました。

三・四年生の「元気に鳴らせ！よつちよれ」は太鼓、鳴子、元気な声とともに迫力ある演技に感動しました。

五・六年生の「想」は去年同様に組まない組み立て体操です。一人一人の思い、自分の技を極めようという強い気持ち伝わってくるすばらしい演技でした。

最後の色別対抗リレーは観客席から大きな声援が沸き上がり、大盛り上がりでした。

途中の雨でどうなるかと思いましたが、先生方の臨機応変な対応のおかげで事故もなく、笑顔で閉会式を迎えることができました。

最後までがんばった児童のみなさんお疲れさまでした。応援に駆けつけてくださった保護者の方、指導くださった先生方にもお礼を申し上げます。ありがとうございました。

朝のあいさつ

PTA生活委員長 水野 浩二

六月十日、私は初めてあいさつ運動に参加しました。みんな元気に、「おはようございます。」とあいさつをしてくれることに感心

しました。日々の学校生活の中であいさつをすることがしつかりできていくのだと感心しました。

正門前の横断歩道で渡ってくる子供たちが渡り終わったあと、止まっている車に向かって、「ありがとうございます。」とお礼をする姿を見ました。おどろいたと同時に感動しました。大人でもできないことを当り前にできている子供たちの姿を見ることでできて、とても気持ちがよかったです。

コロナ感染予防でマスクをしていながらも、大きな声はつきり聞き取れるくらいにあいさつをしてくれる子供たち。マスクがなければ今以上に笑顔あふれる明るい元気な表情でのあいさつが見られることだと思います。

コロナの終息を願い、先生方、保護者の皆様、地域の支援者の皆様とともに子供たちの成長を支えていきたいと思っております。

資源回収について

第一回資源回収収益金

五五、一八五 円

第二回資源回収収益金

三七、七三〇 円

第三回資源回収は、一月二十一日(土)に実施します。よろしくお願います。